

さいたま市公民館運営審議会
障害者の生涯学習を推進する公民館事業の
あり方について
答 申

令和3年10月
さいたま市公民館運営審議会

(目 次)

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
1 障害者の生涯学習を取り巻く現状及び課題・・・・・・・・	2
2 本市の動向と公民館における取組等・・・・・・・・	4
3 障害者の生涯学習を推進するにあたっての課題・・・・・・・・	7
4 公民館事業のあり方について・・・・・・・・	9
5 障害者の生涯学習を推進するためには・・・・・・・・	11
おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・	14
資料	
1 諮問文写し・・・・・・・・・・・・・・・・	15
2 さいたま市公民館運営審議会審議経過・・・・・・・・	16
3 障害者の生涯学習に関する事業の事例報告・・・・・・・・	17
4 さいたま市公民館運営審議会委員名簿・・・・・・・・	27
(任期：令和元年11月1日～令和3年10月31日)	

はじめに

障害者の権利について、我が国では障害者基本法や障害者差別解消法の成立を経て、平成26年に障害者の権利に関する条約を批准している。また、平成27年9月の国連サミットにおいて採択された「持続可能な開発目標」(SDGs)においては、地球上の「誰一人として取り残さない」をテーマに、持続可能な世界を実現するための国際目標が定められた。SDGsの17のグローバル目標の一つに教育は位置づけられており、そのターゲットの一つに「子ども、障害及びジェンダーに配慮した教育施設を構築・改良し、すべての人々に安全で非暴力的、包摂的、効果的な学習環境を提供できるようにする」ことが掲げられる等、すべての人に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進することが求められている。

国内では、平成30年3月に策定された国の第4次障害者基本計画において、障害者の「生涯を通じた多様な学習活動の充実」が盛り込まれ、障害者の学校卒業後における学びを支援し、地域や社会への参加を促進することが、共生社会実現の方策として明確に位置付けられた。

本市の公民館においては、障害をテーマとした事業や、障害の有無にかかわらず共に学べる事業を実施することで、障害のある人とない人が互いに理解を深め、障害者の学習機会の充実に努めてきた。こうした状況の中、障害者が地域の一員として豊かな人生を送ることができるよう、公民館における取組をより一層拡充していくため、令和元年11月にさいたま市生涯学習総合センター館長より「障害者の生涯学習を推進する公民館事業のあり方について」の諮問を受け、障害者の学びを取り巻く環境や課題について整理し、公民館事業のあり方について審議を重ねてきた。

本答申が今後の公民館運営の手がかりとして、公民館職員及び関係者に活用されるとともに、障害者が生涯学習に取り組むきっかけとなり、社会教育の振興に寄与することを期待する。

※なお、「障害者」を「障碍者」と表記する例も見られるが、本答申においては、「障害者」の表記を用いることとする。

1 障害者の生涯学習を取り巻く現状及び課題

平成29年4月に、文部科学省通知「障害者の生涯を通じた多様な学習活動の充実について」が発出された。通知では、障害者の生涯を通じた多様な学習活動の充実について、「広く生涯学習、学校教育、社会教育、スポーツ、文化、福祉、保健、医療、労働等の各分野の関係機関が連携し、障害者の生涯を通じた多様な学習活動の支援を進めていただくことが重要」とされている。

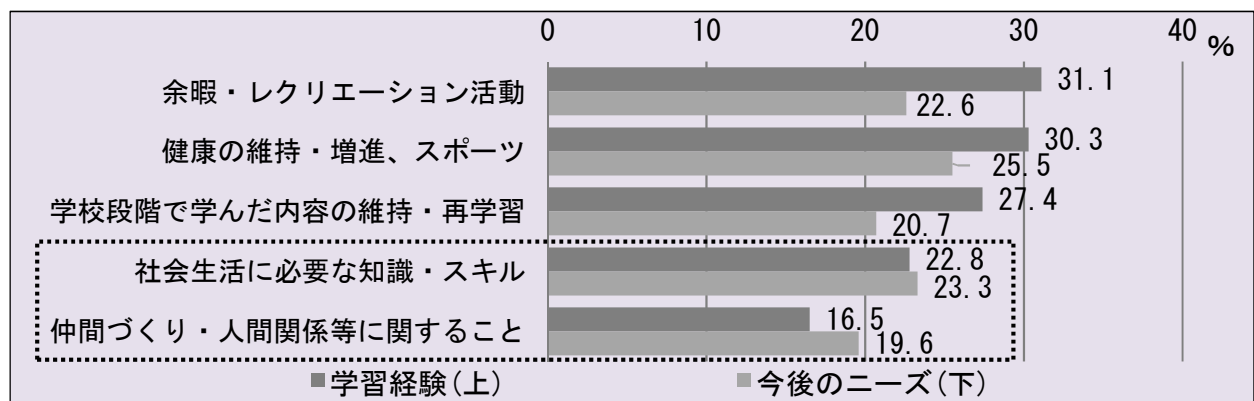
これに続き平成30年度には、学校卒業後の障害者が生涯学習活動に参加する際の阻害要因、促進要因、生涯学習活動の実態等の把握、分析を目的とした「学校卒業後の生涯学習に関する障害者本人等アンケート調査」（以下、「調査」という）が、文部科学省により実施されたところである。

調査（図1）によると、学校卒業後の学習経験は、「余暇・レクリエーション活動」（31.1%）、「健康の維持・増進、スポーツ活動」（30.3%）、「学校段階で学んだ内容の維持・再学習に関する活動」（27.4%）の順に数値が高くなっている。

一方、今後の生涯学習のニーズについては、「健康の維持・増進、スポーツ活動」（25.5%）、「社会生活に必要な知識・スキル」（23.3%）、「余暇・レクリエーション活動」（22.6%）の順に数値が高くなっている。

また、学習経験よりも今後のニーズの数値が高い（やりたいと思っても経験できていない）ものとして、「仲間づくり、人間関係等に関すること」（3.1ポイント差）が挙げられていることから、一人で学習するだけではなく“誰かと共に学ぶ”ことに対する潜在的なニーズが見て取れる。

図1 学校卒業後の学習経験と今後のニーズについて



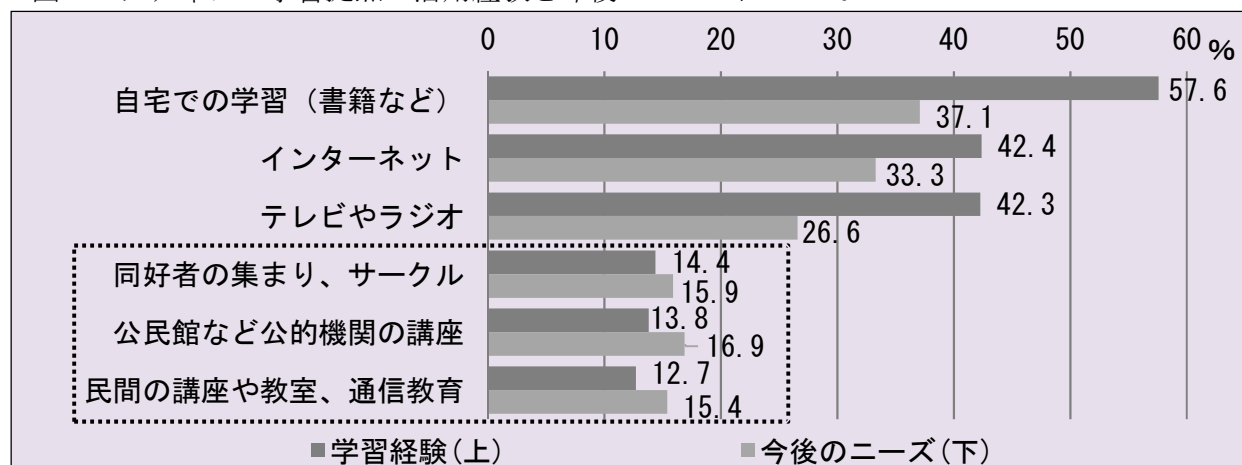
次に、生涯学習に取り組んだ理由については、「様々な経験を通して成長するため」という回答が45.8%と最も多く、以下、「暮らしの中で生じる課題を解決するため」(39.4%)、「健康の維持・増進のため」(38.0%)の順となっており、生涯学習に自己実現や課題の解決といった成果を期待していることがうかがえる。

また、「メディア・学習拠点の活用経験と今後のニーズについて」(図2)は、「自宅での学習活動(書籍など)」(57.6%)、「インターネット」(42.4%)、「テレビやラジオ」(42.3%)が突出している。学習経験よりも今後のニーズの数値が高い(やりたいと思っても経験できていない)ものとして、「公民館や生涯学習センターなど公的な機関における講座や教室」(3.1ポイント差)、カルチャーセンターやスポーツクラブなど「民間の講座や教室、通信教育」(2.7ポイント差)、「同好者の集まり、サークル活動」(1.5ポイント差)が挙げられることから、公的機関による講座や、人と一緒に学ぶ機会の提供を求めているものと推測される。

さらに、生涯学習に関する課題として、「一緒に学習する友人、仲間がない」(71.7%)「学習費用を支払う余裕がない」(71.5%)「学ぼうとする障害者に対する社会の理解がない」(66.3%)が挙げられており、障害者が生涯学習に取り組むためには、周囲の理解や支援が重要であることがうかがえる。

この調査から、公民館等の公的機関による学びのニーズへの対応や学ぶための環境整備、支援等が求められていることが明らかになった。

図2 メディア・学習拠点の活用経験と今後のニーズについて



2 本市の動向と公民館における取組等

(1) 本市の動向

本市では、平成23年4月に「さいたま市誰もが共に暮らすための障害者の権利の擁護等に関する条例」（ノーマライゼーション条例）を施行し、同条例の理念を基に、「さいたま市障害者総合支援計画」を策定している。本計画では「誰もが権利の主体として安心して地域で生活できる社会の実現を目指して」を基本方針としており、本計画に基づいて様々な障害者施策に取り組んでいる。また、本市の基本的・総合的取組がSDGsの理念に沿っているとして、令和元年には内閣府から「SDGs未来都市」に選定されたところである。

教育委員会においては、「第2期さいたま市教育振興基本計画」の中で、2030年以降の社会を展望した教育の役割として、「年齢、性別、国籍、経済状態、障害の有無等、多様な人々の一人ひとりが互いの人格を尊重し支え合いながら幸せに生きるとともに、社会で自らの役割と責任を果たし、生きがいを持って活躍できるようにしていくことが重要」としている。

(2) 本市の公民館における対象事業

本市では、公民館をはじめとした社会教育施設において障害者等を対象とした生涯学習事業にすでに取り組んでいたが、前述の文部科学省通知を受け、以下のとおり既存事業の一層の充実等を図っている。

具体的には、一部の公民館で実施していた障害者を対象とした事業を拡充し、さらに平成30年度から「生涯学習総合センター・拠点公民館・地区公民館事業方策」に、「障害者が地域の一員として豊かな人生を送ることができるよう、障害をテーマとした事業や障害者に配慮した事業を実施するなど様々な学習機会を提供する」ことを盛り込み、全公民館において障害者の生涯学習の推進に向けた事業を実施している。（表1）

表1 【障害者の生涯学習に関する事業実績】

事業種別	平成30年度実績	令和元年度実績
「障害者の生涯学習」に関する事業 (以下の「ア～ウ」に1つ以上該当する事業※)	57事業	70事業(+13)
ア：障害をテーマとした事業 (主に障害のない人に障害を知ってもらうもの)	39事業	37事業(-2)
イ：障害のある人を主な対象とした事業または 交流を図ることを目的とした事業	18事業	25事業(+7)
ウ：障害のある人に配慮した事業 (手話通訳者の配置等)	10事業	23事業(+13)

※ア～ウについては重複あり。※令和元年度実績欄の()は前年度比較値。

【各種事業事例】

事業種別ア：避難所講座（岩槻本丸公民館）等

事業種別イ：卓球バレーを楽しもう（大砂土公民館）※等

事業種別ウ：もっと話したい方のための手話講座（南浦和公民館）等

※卓球バレー：卓球台とピンポン玉を使用してバレーのように対戦するスポーツで、障害のある人とない人が一緒に楽しむことができる競技

平成30年度と令和元年度の比較では、事業総数が13増となっており、障害者を対象とした事業や障害者に配慮した事業については、前年度よりも事業数を増やしている。また、令和元年度の講座のアンケート結果を見ると、「とても楽しめた」「また受講したい」「勉強になった」等の声が参加した障害者から多数寄せられ、その保護者からは、「子どもに寄り添って講義をしてくれた」「講座の雰囲気良く安心して参加できた」等の声もあり、満足度の高さがうかがえたことから、引き続き、さいたま市の公民館として障害者の生涯学習を推進する必要性を再認識した。

（3）本市の公民館における取組事例

本審議会は、社会教育や学校教育の分野、また公民館利用者など、多様な視点から審議を重ねてきた。さらに、公民館が進めている「障害者の生涯学習の推進に関する事業」について、その周知方法や事業形態などを知り、審議に役立てるため、審議会において各区公民館職員による事例発表が行われた。

まず、（2）で例示した大砂土公民館の卓球バレーでは、令和元年度に実施した際には、障害者も参加し、交流を図ることができた（写真1）。このような取組は、地域交流の拠点である公民館のモデルケースとなるものであり、交流を図ることを目的とした事業は障害者のニーズにも合致していることから、今後も推進していくことが望ましい。



写真1 卓球バレー

鈴谷公民館では、隣接する障害者福祉施設と料理教室を共催し、施設職員協力のもと事業運営を行った。この事業は参加した施設利用者が班に分かれてテーマの料理を作るもので、集団活動を通して協調性・他人への配慮を学ぶことを目的としている。障害の状態等が異なるにもかかわらず、役割分担をして協力しながら料理を作り、さらに事業終了間際には班員同士が打ち解けた様子が見られた。このような共催事業は障害者の社会参加促進に一定の効果をあげていることから、継続・強化していくことが望まれる。

岩槻本丸公民館では、公民館の防災備品や館内を見学し、災害時にどのような備えをしたらよいかを障害のある人となない人が共に考える事業を開催しており、このように、共通のテーマについて一緒に考え、体験する事業は、共に地域をつくっていく気運の醸成につながる事業であると考えられる（写真2）。



写真2 避難所講座

内野公民館では、近隣の障害者福祉施設の利用者が制作した美術作品等を公民館のロビーに展示する事業を実施しており（写真3）、南筈公民館では、公民館地域内の中学校特別支援学級の生徒に紙芝居を上演してもらった。このように、障害者が公民館主催事業において、発表する側として参加することも障害者の生涯学習の推進に有効であると考えられる。



写真3 みのり園作品展

（4）障害者福祉事業所からのヒアリング

公民館において障害者の生涯学習を推進するためには、本市の障害者が公民館に対して抱いているニーズを把握する必要がある。現場の生の声を聞き、障害者の生涯学習を推進する事業のあり方を考察する上での参考とするため、障害児の放課後支援から障害者の就労支援まで幅広く行っている NPO 法人の代表者にヒアリングを行った。

【ヒアリングから分かったこと】

- ・イベント等を通して地域住民とつながり、交流をし、地域の一員として社会貢献をしたいと考える障害者は多くいる。
- ・学校や仕事が終わってからの余暇時間を活用したいと考えている障害者が多い。
- ・当施設以外の人々と交流できる場がない。
- ・公民館が事業を実施する上では、障害に関する専門家を配置する必要がある。
- ・障害者が公民館を利用するにあたり、安心できる施設でなければならない。

上記に加え、「障害者が育った場所で、地域の人々と手をつなぎ、支えを受け、社会の一員として生きていくことが必要」という話があった。共生社会の実現が謳われている昨今においては、このような考え方こそ重要であり、障害者が学校や職場、支援施設以外の場所でも地域・社会とつながること、余暇時間においても交流の機会を持つことが障害者の孤立を防ぎ、真に障害者のニーズに答えていくことになる。そして、学習を通じたつながりづくりや、交流機会の提供こそが公民館の役割であると考えられる。

3 障害者の生涯学習を推進するにあたっての課題

公民館では、すでに障害者等を対象とした生涯学習事業を実施しており、一部の公民館では積極的な取組が行われていることが分かったが、今後の障害者の生涯学習を推進するにあたって、次のような課題が明らかになった。

(1) 事業への参加しにくさ

各区の障害者の生涯学習に関する事業の事例発表の中で、事業実施前後における障害者への配慮について議論がされた。公民館では前述のとおり、障害者を対象とする事業が増加傾向にある他、申込方法にFAXやインターネットによる受付を取り入れる等の改善が行われている。一方、公民館が実施する講座の中には、障害者が参加しづらいと考えられるものも存在するため、段差や階段が多い会場のバリアフリー化や、手話等の支援がなければ受講できないといった事情への対応、企画段階での障害者自身のニーズの把握などが求められている。

講座の企画・実施に際しては、どうすれば障害者が参加しやすくなるのかを把握し、個別のニーズに配慮することが必要であり、こうした取組により、障害者にとって魅力ある講座となり、障害者の参加が増加すれば他の参加者との交流促進にもつながる。

(2) 障害者をサポートする人材

公民館講座に障害者が参加できるようにするためには、会場や講座の内容、障害の状態等やニーズに応じて適切な支援を行う必要があることは前述のとおりであるが、そのためには支援や介助（以下、サポートという）をする人材が必要となる。しかし、障害の多様化や障害者の高齢化が進んでいることもあり、公民館職員の対応に関するノウハウが必ずしも十分なレベルに達しているとは言えない。また、障害者をサポートする職員以外のスタッフやボランティアが不足している現状もある。

障害者への十分なサポートを行うためには、人材確保のためだけでなく、機動的なネットワークの構築が求められている。そのためには、公民館が中心となって他部署との連携や地域との協働を図っていく必要があると考えられる。

(3) 公民館の認知度

3頁の調査(図2)において、公民館等の公的機関の講座を活用したことがあると回答した障害者が13.8%にとどまっている。この理由としては、公民館という名前は知っていても、自分が利用できる施設として認識されていないことから、講座の情報が障害者に伝わらず、講座への参加に至っていないこと等が考えられる。

一方で、公民館など公的機関の講座については今後のニーズが学習経験を上回っている。これらのことから、公民館が障害者の生涯学習を推進している施設であることや、「集う」「学ぶ」「結ぶ」という役割を持つことについて、広報活動等により一層の周知を図る必要がある。

4 公民館事業のあり方について

本審議会では、公民館に対する障害者のニーズやさいたま市公民館事業の現状の把握・課題の整理を行い、また、障害者の生涯学習を推進する必要性が引き続きあることから、それらを踏まえ、「障害者の生涯学習を推進する公民館事業のあり方について」は、以下の（１）～（３）が目指すべき方向性であると考えられる。

（１）障害者が参加しやすい公民館事業の設計

3（１）でも述べたとおり、公民館事業の実施に際して障害者が参加しやすくなるような取組を充実させる必要がある。特に、障害の有無にかかわらず一緒に楽しめる事業を増やしたり、障害者自身に関わるテーマを設定したりするなど、本人の興味・関心を高め、学習意欲の高揚を図る方法が必要となる。また、障害者やその関係者が事業企画の段階から参画できるような事業を計画することで、職員・公民館利用者との交流が図られ、障害者自身のニーズにも応えることが可能となる。以上のような事業設計を行うことにより、より多くの障害者の参加が期待でき、事業を通して障害に対する理解や交流がより促進されることが考えられる。また、公民館を利用していない障害者のニーズが埋もれてしまっていることも考えられるため、そうした声を拾い上げていくことが重要である。

さらに、会場における小さな段差の解消や誘導の補助など、簡易に取り組みやすいバリアフリー化を行うことで、障害者が物理的にも事業に参加しやすくなるような改善を行う必要がある。事業によっては、手話通訳者や要約筆記者等の派遣事業の利用やボランティアグループとの連携等も、参加促進の一助となるため、こうした事業の積極的な活用とボランティアグループとの関係性を深化させていく必要がある。

（２）障害者をサポートできる人的体制の整備

3（２）でも述べたとおり、障害の状態等やニーズに応じて適切なサポートができる人材の育成は急務である。

職員に関しては、生涯学習総合センター及び各拠点公民館において実施している職員研修において、“合理的配慮”や多様な障害への理解を深める内容などを盛り込んでいく必要がある。また、近隣の社会福祉協議会や市の担当部署等との連携により、互いに補い合いながら、教育委員会と市の担当部署が垣根を越えて解決策を導き出すことも効果的であると考えられる。

スタッフやボランティアに関しては、公民館利用者、講座参加者同士が互いに手助けをする関係づくりや、公民館に協力してくれる人材の育成などにより、市民がつな

がりの中で障害者との関係をはぐくんでいくことが期待できる。そのためには、公民館がボランティアの養成講座等を企画・実施することや日頃公民館を利用する方々と良好な関係を築くことが重要であり、それにより、地域とともにある公民館となり、地域の人からの協力を期待することができる。

(3) 公民館の認知度の向上

障害者のニーズの一つとして、1で述べた調査(図1)の結果において、「仲間づくり・人間関係等に関すること」が挙げられており、本審議会においても「交流の場の確保」の必要性が指摘されている。公民館は地域の拠点であり、障害のある人となない人が共に地域の一員として、互いに認め合う共生社会の実現に取り組むことが、地域づくりにおける公民館の役割といえる。その実現のためには、まず公民館という施設が広く障害者をはじめ、住民に認識される必要がある。

障害者が気軽に立ち寄り、学ぶことができる公民館となるためには、公民館がどのような取組を行っているのか積極的に情報発信を行い、障害者をはじめ情報が必要な人に届く広報を行うことが大切である。インターネットやSNSを活用した事業のPRや、障害者と地域住民との交流促進による口コミでの情報共有などは非常に有効であると考えられる。その他にも、各公民館で計画した障害者を対象とした事業や障害者に配慮した事業の一覧を障害者福祉施設などに配布することも効果的である。

5 障害者の生涯学習を推進するためには

「4 公民館事業のあり方について」において公民館が事業を実施する上で目指すべき方向性を示したが、その方向性とこれまで論述してきた内容を踏まえ、公民館は以下の取組を推進する必要があると考えられる。

(1) 公民館事業を通じた地域とのつながり

障害者の生涯学習を推進するためには、公民館が地域団体や近隣施設と連携・協働し、学んだ成果を障害者自身の暮らしや社会とのつながりに結び付けられるようコーディネートすることが重要であり、それに加え、障害のある人とない人がともに助け合っていく必要もある。

さらに、障害者支援をはじめとした地域課題の解決にあたっては、障害者自身の興味や関心を把握し、それを生かした学びの機会をつくることが大切である。具体的には、地域に住む障害者が事業等について直接意見を言える仕組みがあると、公民館に興味関心を持つきっかけにもなり、公民館は意見をもらうことでより地域の状況に即した取組が実現可能となる。それがひいては、障害のある人とない人が地域を共につくっていく気運の醸成にもつながっていくと考えられる。

(2) 障害者の交流の場の拡充

障害者の生涯学習の推進にあたっては、交流の場づくりも重要である。公民館には、地域住民の一員である障害者の「学びたい」「つながりたい」ニーズに応えられるよう、例えば、市の担当部署を通して講座・団体情報を積極的に提供するなど、学びのサポートを積極的に行うことが求められている。

また、発表や展示の場は人々の交流を活性化させる効果があり、公民館が障害者の活動成果を発表できる場づくりを行うことは大変意義深い。特に、障害者が発表する側である場合には、発表や作品を通じて互いを知るきっかけとなることも期待できるため、2(3)で挙げた内野公民館や南箇公民館のような事業をより拡充していく必要があると考えられる。特に、南箇公民館の事業は、特別支援学級教諭等が事業の運営委員になっており、障害者の視点も事業企画に盛り込むことが可能となる良い事例である。企画、検討段階での障害者及びその関係者の参画は、障害者と職員・公民館利用者との関係の醸成にもつながるため、今後、他の公民館においても拡大していくことが望まれる。

(3) 公民館事業の設計・実施にあたっての合理的配慮

合理的配慮は、障害者本人やその支援者からの意思の表明により、一人ひとりのニーズに応じた個別の配慮や支援を行うものである。しかし、こうした意思を伝えることは勇気がいることであり、申し出をためらったり学習活動への参加を諦めてしまったりする人も少なくないと考えられる。

そのため、公民館などの施設では、相手からの申し出に応えるだけでなく、社会的障壁となる事項をできる限り想定し、事業を設計する段階で対応を検討するとともに、その情報を提供することによって、障害者等の心理的負担を減らし、参加や相談をしやすい学習環境を整える必要がある。

また、障害者等が公民館の事業に参加しやすくなるように、事業の申し込みを受けるときにどのような配慮が必要であるか、事前に聞き取りを行うことも考えられる。こうした配慮を行い、障害者等の学びを保障していくことが求められている。

さらに、エレベーターの設置されていない公民館においては、事業を実施する会場を1階にするなどの配慮を行うとともに、館報やホームページによって合理的配慮等がされていることを広く周知することも有効である。

(4) 公民館施設の整備

障害者等の学習活動を推進するために、公民館は、施設内外の設備のバリアフリー化とユニバーサルデザイン導入を推進し、障害者等の学習しやすい環境を整備する必要がある。

本市の公民館施設リフレッシュ計画では、公民館施設の改修、建替えを行う際には、多目的トイレ改修やスロープの設置による段差解消など誰もが利用しやすい施設整備を引き続き進めることを掲げており、公民館における多目的トイレの設置率は約78%となっている。

一方、エレベーターが設置されていない公民館については、平成29年度にエレベーターの設置が可能であるか調査を実施し、設置に向けた取組を始めているが、エレベーターをはじめとした施設整備については、今後も計画に則り推進していく必要がある。

表2【バリアフリーの例】 ※（）内数値は令和2年度末時点における設置館数

呼び出し用インターホンの設置（6）	階段昇降機の設置（0）
ピクトグラムの表示※ ¹ （14）※ ²	多目的トイレの設置（47）
ヒアリングループ※ ³ （5）	自動ドアの設置（60）
光警報装置※ ⁴ （4）	スロープの設置（58）
エレベーターの設置（17）	

※1 「絵文字、絵単語」などと呼ばれ、何らかの情報や注意を示すために表示される視覚記号の一つ

※2 トイレの男女表示・避難口誘導灯を除いた館数

※3 聴覚障害者等用の補聴器を補助する設備

※4 火災を感知すると音と光の点滅で警報する火災報知装置

【バリアフリーの事例】

・美園公民館 「ピクトグラム」

美園公民館では、職員が作成したピクトグラムを多数掲示しており、公民館からのお願いや禁止事項について利用者に伝わりやすくなるよう工夫を凝らしている。



・上落合公民館 「多目的トイレ」

上落合公民館では、公民館施設リフレッシュ計画に基づき令和2年度に中規模修繕工事を行い、もともと設置してあった多目的トイレの改修を行った。改修の際に新設されたオストメイト対応のための設備やベビーベッドの他、トイレ内には手すり等も整備されている。

・針ヶ谷公民館 「スロープ」

針ヶ谷公民館では、公民館施設リフレッシュ計画に基づき令和2年度に中規模修繕工事を行い、車いすの方などが駐車場から入口へスムーズに移動できるようスロープを設置した。スロープ入口にはインターホンも設置されている。



おわりに

今回の答申を検討するにあたり、障害者には公民館などの公的な機関における講座や教室に参加したいという学びのニーズがあるにもかかわらず、その実現のために様々な課題があり、対応が必要であることが分かった。

また、本市の公民館においては、すでに障害者等を対象とした多くの事業を実施しているにもかかわらず、公民館が障害者にとっても「集う」「学ぶ」「結ぶ」ことができる施設であることや障害者に対して公民館がどのような施策を行っているのかが浸透していないために、公民館事業の情報が障害者に伝わらず、講座への参加に至っていないという課題が提起されていた。

本審議会では、「障害者の生涯学習を推進する公民館事業のあり方」について、様々な角度から考察してきたが、障害者の生涯学習を推進するためには、障害者が参加しやすい事業設計を行うことや障害者をサポートできる体制が必要であることが明らかになった。また、各公民館では公民館職員が障害者のサポートを行うにあたり必要なスキルを向上させる取組に加えて、専門部署や団体などとの連携・協働体制を構築するなどによって、障害者の参加に向けてのハードルを低くすることができることを確認できた。

本市では、本年3月に新しい時代の公民館のあり方と中長期的な目標を明確にし、それを住民と共有するために「さいたま市公民館ビジョン」が策定され、その行動目標として「人づくり」「つながりづくり」「地域づくり」の3つを掲げており、各公民館では、ビジョンの実現に向けた具体的な取組を実施することとしている。行動目標の「人づくり」では、障害者のニーズに対応した学びの提供、「つながりづくり」では、障害のある人とない人との新たな交流づくり、「地域づくり」では、障害者の地域での活動の支援などが考えられる。

今後、各公民館が、本答申を踏まえた障害者の生涯学習を推進するための事業や合理的配慮等を行い、障害のある人もない人も、多様な形態で質の高い学びを続け、人生を豊かにするために学んだことを生かして誰もが活躍できる社会の実現を目指し、その一翼を担うことを期待する。

(参考)

(諮問文写し)

教生総セ第2565号
令和元年11月26日

さいたま市公民館運営審議会
委員長様

さいたま市立生涯学習総合センター
館長 吉田 治 士

さいたま市公民館運営審議会への諮問について

社会教育法第29条第2項の規定に基づき、下記のとおり諮問します。

記

1 諮問事項

「障害者の生涯学習を推進する公民館事業のあり方について」

2 諮問理由

平成30年3月に策定された国の第4次障害者基本計画においては、「生涯を通じた多様な学習活動の充実」が盛り込まれ、障害者の学校卒業後における学びを支援し、地域や社会への参加を促進することで、共生社会の実現につなげることが明確に位置付けられました。

本市の公民館においても、障害者が地域の一員として豊かな人生を送ることができるよう、障害をテーマとした事業や、障害の有無に関わらず共に学べる事業を実施することで、相互理解を深め、障害者が主体となって学習できる機会を提供しているところ です。

そこで、障害者の学びを取り巻く環境や課題について整理し、各区の公民館が目指す方向性を打ち出し、障害者の生涯学習を推進する公民館事業のあり方について諮問するものです。

(参考)

さいたま市公民館運営審議会審議経過

回数	開催日	審議・協議等の内容
1	令和元年11月26日(火)	<ul style="list-style-type: none">・公民館運営審議会について・生涯学習総合センター・公民館について・諮問について・今後の会議日程について・他の会議等に推薦している委員について
2	令和2年1月28日(火)	<ul style="list-style-type: none">・障害者の生涯学習における国の動向及びさいたま市の現状について
3	令和2年7月28日(火)	<ul style="list-style-type: none">・さいたま市の各区公民館において実施している障害者の生涯学習について
4	令和2年11月24日(火)	<ul style="list-style-type: none">・公民館に対する障害者のニーズについて・さいたま市公民館ビジョンについて・さいたま市優良公民館表彰について
5	令和3年3月24日(水)	<ul style="list-style-type: none">・内野公民館主催事業「みのり園作品展」について・市長部局との連携について・諮問「障害者の生涯学習を推進する公民館事業のあり方について」に対する答申骨子素案について・さいたま市公民館ビジョンについて・令和3年度公民館事業計画書について・第73回優良公民館表彰について
6	令和3年5月25日(火)	<ul style="list-style-type: none">・諮問「障害者の生涯学習を推進する公民館事業のあり方について」に関するまとめ案について・第74回優良公民館表彰について
7	令和3年7月27日(火)	<ul style="list-style-type: none">・諮問「障害者の生涯学習を推進する公民館事業のあり方について」に関するまとめ案について・第74回優良公民館表彰について
8	令和3年10月12日(火)	<ul style="list-style-type: none">・答申「障害者の生涯学習を推進する公民館事業のあり方について」(案)について

障害者の生涯学習に関する事業の事例報告

区名 西区 館名 内野公民館 担当 成尾千里

事業名 ひまわりファミリーcafe シナプソロジー®

項 目	内 容																																					
基本 情報	<p>主な内容</p> <p>脳を活性化させるシナプソロジーのエクササイズを通して、ひまわり特別支援学校の子どもたちと保護者同士の交流を図り、楽しくリズムレッスンを体験する講座。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>障害をテーマとした事業 <input checked="" type="checkbox"/>障害のある方を主な対象とした事業または交流を図ることを目的とした事業 <input checked="" type="checkbox"/>障害のある方に配慮した事業</p>																																					
	<p>日時・回数</p> <p>令和元年8月21日(水)10時00分～11時30分・全1回</p>																																					
	<p>会 場</p> <p>内野公民館(西区)</p>																																					
	<p>対象・定員</p> <p>ひまわり特別支援学校在学の子どもとその保護者、支援者・8組</p>																																					
申 込	<p>申込期間</p> <p>令和元年7月8日(月)～令和元年8月20日(火)</p>																																					
	<p>申込方法</p> <p>窓口・電話・FAX 抽選の有無 <input type="checkbox"/> 無</p>																																					
	<p>託児の有無 <input type="checkbox"/> 無 託児定員 <input type="checkbox"/> 託児対象 <input type="checkbox"/></p>																																					
実 施 報 告	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">申込者人数</td> <td style="width: 10%;">男性</td> <td style="width: 5%;">3</td> <td style="width: 10%;">女性</td> <td style="width: 5%;">9</td> <td style="width: 5%;">合計</td> <td style="width: 5%;">12</td> <td rowspan="2" style="width: 40%; vertical-align: top;">【障害者の内訳(参加者実人数)】</td> </tr> <tr> <td>参加実人数</td> <td>男性</td> <td>3</td> <td>女性</td> <td>3</td> <td>合計</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>参加延人数</td> <td>男性</td> <td>3</td> <td>女性</td> <td>9</td> <td>合計</td> <td>12</td> <td rowspan="2" style="vertical-align: top;"> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">障害種別</td> <td style="width: 10%;">身体</td> <td style="width: 5%;">6</td> <td style="width: 10%;">知的</td> <td style="width: 5%;">6</td> <td style="width: 5%;">精神</td> <td style="width: 5%;"></td> </tr> </table> </td> </tr> <tr> <td>託児人数</td> <td>男性</td> <td>0</td> <td>女性</td> <td>0</td> <td>合計</td> <td>0</td> </tr> </table>	申込者人数	男性	3	女性	9	合計	12	【障害者の内訳(参加者実人数)】	参加実人数	男性	3	女性	3	合計	6	参加延人数	男性	3	女性	9	合計	12	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">障害種別</td> <td style="width: 10%;">身体</td> <td style="width: 5%;">6</td> <td style="width: 10%;">知的</td> <td style="width: 5%;">6</td> <td style="width: 5%;">精神</td> <td style="width: 5%;"></td> </tr> </table>	障害種別	身体	6	知的	6	精神		託児人数	男性	0	女性	0	合計	0
	申込者人数	男性	3	女性	9	合計	12	【障害者の内訳(参加者実人数)】																														
	参加実人数	男性	3	女性	3	合計	6																															
	参加延人数	男性	3	女性	9	合計	12	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">障害種別</td> <td style="width: 10%;">身体</td> <td style="width: 5%;">6</td> <td style="width: 10%;">知的</td> <td style="width: 5%;">6</td> <td style="width: 5%;">精神</td> <td style="width: 5%;"></td> </tr> </table>	障害種別	身体	6	知的	6	精神																								
	障害種別	身体	6	知的	6	精神																																
	託児人数	男性	0	女性	0	合計	0																															
	<p>経緯・目的 意図・必要性</p> <p>地域の障害者(障害)に関する課題やニーズ実施することで表現しようとしたこと</p> <p>公民館主催講座に、隣接するひまわり特別支援学校が協力して参加することで、地域の学校との交流、障害のある子どもたちとその保護者・支援者同士の交流を図る。シナプソロジーのエクササイズを通して、脳や身体の活性化を促す。</p>																																					
<p>手段・工夫</p> <p>地域の障害者に対する周知(広報手段) 地域における障害者(障害)の参加や理解促進のために行った内容</p> <p>ひまわり特別支援学校の先生と打合せを重ね、公民館施設内で事前に妨げとなる箇所を洗い出し、段差になってしまうスノコを撤去するなどバリアフリーに努めた。参加する障害者の子どもたちの体調に注意を払い、有事の際には救急車の手配などを保護者と連携して迅速に出来るよう準備をした。</p>																																						
<p>成 果</p> <p>事業を実施してみて得られた成果(効果) 参加者アンケートの結果を踏まえて</p> <p>障害者スポーツトレーナーを講師に迎えたため、障害を持ちながらも楽しくシナプソロジーを体験してもらうことが出来た。参加者同士が交流する賑やかな講座となり、全員が「満足した」というアンケート結果となった。特別支援学校の子どもたちに、公民館という施設を知ってもらい、学校では学べない体験を提供することが出来た。特別支援学校の先生の協力を得て行うことで、障害者やバリアフリーについて考えるきっかけとなり、地域の学校との交流が深まった。</p>																																						
<p>課 題</p> <p>事業を実施してみて明らかになった問題点及び改善点 今後、挑戦してみたいこと</p> <p>参加者が定員に達しなかったため、シナプソロジーというものを分かりやすく伝え、気軽に参加してもらえるような広報を工夫する必要がある。今後は、ひまわり特別支援学校の在校生とその保護者に対象を限定せず、障害のある地域の方や障害についての理解を深めたい方々も参加し、交流を図れる機会となる講座を増やしていきたい。</p>																																						

障害者の生涯学習に関する事業の事例報告

区名 北区 館名 大砂土公民館 担当 岩井 由起子

事業名 卓球バレーを楽しもう

項 目	内 容																																										
基本情報	<p>主な内容</p> <p>障害者スポーツの卓球バレーを夏休みに楽しむ事で、さまざまな障害がある方にも団体スポーツを楽しんでいただき、相互交流をもつていただく事を目的に開催しました。</p> <p><input type="checkbox"/> 障害をテーマとした事業 <input checked="" type="checkbox"/> 障害のある方を主な対象とした事業または交流を図ることを目的とした事業 <input type="checkbox"/> 障害のある方に配慮した事業</p>																																										
	<p>日時・回数</p> <p>令和元年7月24日～31日(水) 14時00分～15時00分・全1回</p>																																										
	<p>会 場</p> <p>大砂土公民館(北区)</p>																																										
	<p>対象・定員</p> <p>どなたでも・24人</p>																																										
申 込	<p>申込期間</p> <p>令和元年6月3日(月)～令和元年7月17日(水)</p>																																										
	<p>申込方法</p> <p>窓口・電話・FAX 抽選の有無 無</p>																																										
	<p>託児の有無</p> <p>無 託児定員 託児対象</p>																																										
実施報告	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%; border: 1px solid black;">申込者人数</td> <td style="width: 10%; border: 1px solid black;">男性</td> <td style="width: 5%; border: 1px solid black;">9</td> <td style="width: 10%; border: 1px solid black;">女性</td> <td style="width: 5%; border: 1px solid black;">3</td> <td style="width: 5%; border: 1px solid black;">合計</td> <td style="width: 5%; border: 1px solid black;">12</td> <td rowspan="4" style="width: 40%; vertical-align: top; padding-left: 10px;"> <p>【障害者の内訳(参加者実人数)】</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%; border: 1px solid black;">男性</td> <td style="width: 5%; border: 1px solid black;">2</td> <td style="width: 10%; border: 1px solid black;">女性</td> <td style="width: 5%; border: 1px solid black;">2</td> <td style="width: 5%; border: 1px solid black;">合計</td> <td style="width: 5%; border: 1px solid black;">4</td> </tr> </table> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%; border: 1px solid black;">障害種別</td> <td style="width: 10%; border: 1px solid black;">身体</td> <td style="width: 5%; border: 1px solid black;">4</td> <td style="width: 10%; border: 1px solid black;">知的</td> <td style="width: 5%; border: 1px solid black;"></td> <td style="width: 5%; border: 1px solid black;">精神</td> <td style="width: 5%; border: 1px solid black;"></td> </tr> </table> </td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black;">参加実人数</td> <td style="border: 1px solid black;">男性</td> <td style="border: 1px solid black;">9</td> <td style="border: 1px solid black;">女性</td> <td style="border: 1px solid black;">3</td> <td style="border: 1px solid black;">合計</td> <td style="border: 1px solid black;">12</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black;">参加延人数</td> <td style="border: 1px solid black;">男性</td> <td style="border: 1px solid black;">12</td> <td style="border: 1px solid black;">女性</td> <td style="border: 1px solid black;">8</td> <td style="border: 1px solid black;">合計</td> <td style="border: 1px solid black;">20</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black;">託児人数</td> <td style="border: 1px solid black;">男性</td> <td style="border: 1px solid black;">0</td> <td style="border: 1px solid black;">女性</td> <td style="border: 1px solid black;">0</td> <td style="border: 1px solid black;">合計</td> <td style="border: 1px solid black;">0</td> </tr> </table>	申込者人数	男性	9	女性	3	合計	12	<p>【障害者の内訳(参加者実人数)】</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%; border: 1px solid black;">男性</td> <td style="width: 5%; border: 1px solid black;">2</td> <td style="width: 10%; border: 1px solid black;">女性</td> <td style="width: 5%; border: 1px solid black;">2</td> <td style="width: 5%; border: 1px solid black;">合計</td> <td style="width: 5%; border: 1px solid black;">4</td> </tr> </table> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%; border: 1px solid black;">障害種別</td> <td style="width: 10%; border: 1px solid black;">身体</td> <td style="width: 5%; border: 1px solid black;">4</td> <td style="width: 10%; border: 1px solid black;">知的</td> <td style="width: 5%; border: 1px solid black;"></td> <td style="width: 5%; border: 1px solid black;">精神</td> <td style="width: 5%; border: 1px solid black;"></td> </tr> </table>	男性	2	女性	2	合計	4	障害種別	身体	4	知的		精神		参加実人数	男性	9	女性	3	合計	12	参加延人数	男性	12	女性	8	合計	20	託児人数	男性	0	女性	0	合計	0
	申込者人数	男性	9	女性	3	合計	12	<p>【障害者の内訳(参加者実人数)】</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%; border: 1px solid black;">男性</td> <td style="width: 5%; border: 1px solid black;">2</td> <td style="width: 10%; border: 1px solid black;">女性</td> <td style="width: 5%; border: 1px solid black;">2</td> <td style="width: 5%; border: 1px solid black;">合計</td> <td style="width: 5%; border: 1px solid black;">4</td> </tr> </table> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%; border: 1px solid black;">障害種別</td> <td style="width: 10%; border: 1px solid black;">身体</td> <td style="width: 5%; border: 1px solid black;">4</td> <td style="width: 10%; border: 1px solid black;">知的</td> <td style="width: 5%; border: 1px solid black;"></td> <td style="width: 5%; border: 1px solid black;">精神</td> <td style="width: 5%; border: 1px solid black;"></td> </tr> </table>		男性	2	女性	2	合計	4	障害種別	身体	4	知的		精神																						
	男性	2	女性	2	合計	4																																					
	障害種別	身体	4	知的		精神																																					
	参加実人数	男性	9	女性	3	合計	12																																				
	参加延人数	男性	12	女性	8	合計	20																																				
	託児人数	男性	0	女性	0	合計	0																																				
	<p>経緯・目的 意図・必要性</p> <p>地域の障害者(障害)に関する課題やニーズ 実施することで実現しようとしたこと</p> <p>地域の障害者施設と共催し、講師を障害のある方をお願いする事で、障害のある方も生きがいと責任感を感じ、健常者と交流する事で相互交流を図る事ができるようにした。</p>																																										
	<p>手段・工夫</p> <p>地域の障害者に対する周知(広報手段) 地域における障害者(障害)の参加や理解促進のために行った内容</p> <p>地域に公民館だよりを配布・障害者施設にチラシを配布。講座の講師を障害のある方をお願いし、参加者をどなたでも参加できるようにした事で相互交流を図れるようにした。</p>																																										
	<p>成 果</p> <p>事業を実施してみて得られた成果(効果) 参加者アンケートの結果を踏まえて</p> <p>障害のある方とない方がスポーツを通して交流する事で相互理解が生まれ、どなたでもできる卓球バレーというスポーツを体験した事で笑いが起こり、アンケートでも満足度が100%であった。</p>																																										
<p>課 題</p> <p>事業を実施してみて明らかになった問題点及び改善点 今後、挑戦したいこと</p> <p>開催して体験して頂くと満足度が高く楽しかったとの意見が多いのですが、募集時点ではなかなか意図を理解して頂く事が難しく、人集めに苦労した。</p>																																											

障害者の生涯学習に関する事業の事例報告

区名 大宮区 館名 桜木公民館 担当 石渡 洋祐

事業名 ボッチャ体験教室

項 目	内 容			
基本 情 報	主な内容	東京2020パラリンピック競技大会の競技種目であり、障害のある方とない方が一緒に楽しむことができる「ボッチャ」を体験することで、東京パラリンピックに向けて障害者スポーツに対する興味と関心を深めてもらう教室である。 第1回 ボッチャについての説明を行った後に実際に対戦をする。 第2回 初回に引き続き対戦を行う。 <input checked="" type="checkbox"/> 障害をテーマとした事業 <input type="checkbox"/> 障害のある方を主な対象とした事業または交流を図ることを目的とした事業 <input type="checkbox"/> 障害のある方に配慮した事業		
	日時・回数	令和2年2月12日・19日(水)14時00分～16時00分・全2回		
	会 場	桜木公民館(大宮区)		
	対象・定員	市内在住・在勤・在学の18歳以上の方・30人		
申 込	申込期間	令和2年1月7日(火)～令和2年2月5日(水)		
	申込方法	窓口・電話・インターネット		抽選の有無 無
	託児の有無	無	託児定員	託児対象
実 施 報 告	申込者人数	男性 7	女性 14	合計 21
	参加実人数(第1回)	男性 7	女性 13	合計 20
	参加実人数(第2回)	男性 4	女性 10	合計 14
	参加延人数	男性 11	女性 23	合計 34
	託児人数	男性 0	女性 0	合計 0
	経緯・目的 意図・必要性	地域の障害者(障害)に関する課題やニーズ 実施することで表現しようとしたこと 障害者への理解促進を目的とし、平成30年度から継続実施しており、障害者に配慮できる心を 養ってもらうために実施している。		
	手段・工夫	地域の障害者に対する周知(広報手段) 地域における障害者(障害)の参加や理解促進のために行った内容 公民館だよりやチラシを、地域の自治会にて回覧、社会福祉協議会や郵便局、市内公民館、区役所等へ設置を依頼しているが、現段階では、障害者(障害)に対する健常者の理解促進のために事業を実施しているため、地域の障害者に特化した広報は行っていない。地域における障害者(障害)の参加や理解促進のために行った内容については、公民館が主体となって行っている事業はないが、立地面・施設面において受け入れは可能である。(平成30年度及び平成31年度に「さいたま市立ひまわり特別支援学校」より近隣施設で行われた管弦楽教室の鑑賞に関わる水分補給などの休憩のために当館の施設を貸し出している。)		
	成 果	事業を実施してみて得られた成果(効果) 参加者アンケートの結果を踏まえて パラリンピックの競技であるボッチャを実際にプレーすることで、楽しみながら障害者の方の気持ちや考え方に触れることができ、社会における障害者の方に対する意識を高めることができた。障害者スポーツを体験することで、障害のある人もない人も分け隔てなく楽しむことができたことを知ることができた。		
	課 題	事業を実施してみて明らかになった問題点及び改善点 今後、挑戦してみたいこと 日頃から障害者が公民館を利用することがなく、障害者への対応について公民館職員の知識も不十分であるため、障害者への周知方法について、どのようにアプローチしてよいか苦慮している。平成30年度から継続実施してきた「ボッチャ体験教室」について障害者も交えて行い、健常者との交流の場を提供していく。(令和2年度は「夏休み子ども公民館」として小学生にも学習の機会を提供していく。)		

障害者の生涯学習に関する事業の事例報告

区名 見沼区 館名 七里公民館 担当 上原 文明

事業名 第35回七里公民館まつり

項目	内 容							
基本 情報	主な内容	<p>七里公民館を利用している団体が、日頃の学習活動の発表の場として、毎年実施しています。また地域の方々の交流の場として、利用団体以外にも、近隣の学校や障害者福祉施設も参加します。展示の部、発表の部、囲碁大会を実施します。</p> <p><input type="checkbox"/>障害をテーマとした事業 <input checked="" type="checkbox"/>障害のある方を主な対象とした事業または交流を図ることを目的とした事業 <input type="checkbox"/>障害のある方に配慮した事業</p>						
	日時・回数	<p>【展示の部・発表の部】 令和2年2月8日(土)10時00分～15時00分 令和2年2月9日(日)9時30分～15時15分</p> <p>【囲碁大会】 令和2年2月12日(水)～13日(木)10時00分～16時00分・全4回</p>						
	会 場	七里公民館(見沼区)						
	対象・定員	どなたでも						
	申込期間							
申 込	申込方法	抽選の有無						
	託児の有無	<table border="1" style="display: inline-table; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">託児定員</td> <td style="text-align: center;">託児対象</td> </tr> </table>	託児定員	託児対象				
	託児定員	託児対象						
申込者人数	<table border="1" style="display: inline-table; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">男性</td><td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">女性</td><td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">合計</td><td style="text-align: center;">0</td> </tr> </table>	男性	0	女性	0	合計	0	
男性	0	女性	0	合計	0			
実施 報告	参加実人数	<table border="1" style="display: inline-table; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">男性</td><td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">女性</td><td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">合計</td><td style="text-align: center;">0</td> </tr> </table>	男性	0	女性	0	合計	0
	男性	0	女性	0	合計	0		
	参加延人数	<table border="1" style="display: inline-table; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">男性</td><td style="text-align: center;">469</td> <td style="text-align: center;">女性</td><td style="text-align: center;">969</td> <td style="text-align: center;">合計</td><td style="text-align: center;">1438</td> </tr> </table>	男性	469	女性	969	合計	1438
	男性	469	女性	969	合計	1438		
	託児人数	<table border="1" style="display: inline-table; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">男性</td><td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">女性</td><td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">合計</td><td style="text-align: center;">0</td> </tr> </table>	男性	0	女性	0	合計	0
	男性	0	女性	0	合計	0		
	経緯・目的 意図・必要 性	<p>地域の障害者(障害)に関する課題やニーズ 実施することで実現しようとしたこと</p> <p>障害者や障害への理解促進を目的とした公民館事業を検討していた。近隣のコミュニティセンターの文化祭において、障害者福祉施設の絵画や陶芸などの作品を展示していたのを知り、七里公民館まつりでも同様に作品展示を実施できないかを施設側に相談し、了承された。平成30年度から障害者福祉施設「社会福祉法人ななくさ」「社会福祉法人希求会ななほし」の利用者の絵画、陶芸などの作品を出展していただいている。</p>						
手段・工夫	<p>地域の障害者に対する周知(広報手段) 地域における障害者(障害)の参加や理解促進のために行った内容</p> <p>公民館まつりの広報としては、公民館だよりを地域の自治会にて回覧や、記者への資料提供を行い、新聞への掲載やテレビ取材が行われた。地域の障害者に特化した広報は行っていないが、広報の内容には障害者福祉施設の作品展示も入っており、また当該施設利用者へは周知されている。平成30年度は2階で作品展示を行ったが、2階への移動が難しい方も来館されたため、令和元年度は展示場所を1階ロビーに変更し、作品展示を行った。</p>							
成 果	<p>事業を実施してみて得られた成果(効果) 参加者アンケートの結果を踏まえて</p> <p>展示場所が、1階ロビーと発表会場の出入口前ということもあり、公民館まつりにいらした多くの方に作品をご覧いただいた。また作品とともに、その障害者福祉施設の紹介もあり、障害者や障害への理解を深められたようだった。</p>							
課 題	<p>事業を実施してみて明らかになった問題点及び改善点 今後、挑戦してみたいこと</p> <p>引き続き、公民館まつりで作品展示が実施できるよう障害者福祉施設と連携していく。他館の「障害者の生涯学習に関する事業」を調査し、当館でも実施できるものがないか研究を行っていく。</p>							

障害者の生涯学習に関する事業の事例報告

区名 中央区 館名 鈴谷公民館 担当 谷口 勲

事業名 障害者のための社会参加支援講座「料理教室」

項目	内容																																										
基本情報	<p>障害者が料理を楽しむ交流を深める。 ～野菜たっぷりのおしゃれランチ～ ケーキ・サ・レ（フランス生まれのおかずケーキ） 障害者総合支援センターと鈴谷公民館の共催で実施</p> <p><input type="checkbox"/> 障害をテーマとした事業 <input checked="" type="checkbox"/> 障害のある方を主な対象とした事業または交流を図ることを目的とした事業 <input type="checkbox"/> 障害のある方に配慮した事業</p>																																										
	日時・回数 令和元年10月25日(金)10時00分～13時30分・全1回																																										
	会場 鈴谷公民館(中央区)																																										
	対象・定員 市内在住在勤の障害のある方（18歳以上）・12人																																										
申込	申込期間 令和元年10月17日(木)まで																																										
	申込方法 電話・FAX・メール・はがき 抽選の有無 <input type="checkbox"/> 有																																										
	託児の有無 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 託児定員 <input type="checkbox"/> 託児対象 <input type="checkbox"/>																																										
実施報告	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">申込者人数</td> <td style="width: 10%;">男性</td> <td style="width: 5%;">0</td> <td style="width: 10%;">女性</td> <td style="width: 5%;">0</td> <td style="width: 5%;">合計</td> <td style="width: 5%;">0</td> <td rowspan="4" style="width: 40%; vertical-align: top;"> 【障害者の内訳(参加者実人数)】 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">男性</td> <td style="width: 5%;">1</td> <td style="width: 10%;">女性</td> <td style="width: 5%;">7</td> <td style="width: 5%;">合計</td> <td style="width: 5%;">8</td> </tr> <tr> <td>障害種別</td> <td>身体</td> <td>知的</td> <td>2</td> <td>精神</td> <td>5</td> </tr> </table> </td> </tr> <tr> <td>参加実人数</td> <td>男性</td> <td>1</td> <td>女性</td> <td>7</td> <td>合計</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>参加延人数</td> <td>男性</td> <td>1</td> <td>女性</td> <td>7</td> <td>合計</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>託児人数</td> <td>男性</td> <td>0</td> <td>女性</td> <td>0</td> <td>合計</td> <td>0</td> <td style="text-align: right;">(1人無記入)</td> </tr> </table>	申込者人数	男性	0	女性	0	合計	0	【障害者の内訳(参加者実人数)】 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">男性</td> <td style="width: 5%;">1</td> <td style="width: 10%;">女性</td> <td style="width: 5%;">7</td> <td style="width: 5%;">合計</td> <td style="width: 5%;">8</td> </tr> <tr> <td>障害種別</td> <td>身体</td> <td>知的</td> <td>2</td> <td>精神</td> <td>5</td> </tr> </table>	男性	1	女性	7	合計	8	障害種別	身体	知的	2	精神	5	参加実人数	男性	1	女性	7	合計	8	参加延人数	男性	1	女性	7	合計	8	託児人数	男性	0	女性	0	合計	0	(1人無記入)
	申込者人数	男性	0	女性	0	合計	0	【障害者の内訳(参加者実人数)】 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">男性</td> <td style="width: 5%;">1</td> <td style="width: 10%;">女性</td> <td style="width: 5%;">7</td> <td style="width: 5%;">合計</td> <td style="width: 5%;">8</td> </tr> <tr> <td>障害種別</td> <td>身体</td> <td>知的</td> <td>2</td> <td>精神</td> <td>5</td> </tr> </table>		男性	1	女性	7	合計	8	障害種別	身体	知的	2	精神	5																						
	男性	1	女性	7	合計	8																																					
	障害種別	身体	知的	2	精神	5																																					
	参加実人数	男性	1	女性	7	合計	8																																				
	参加延人数	男性	1	女性	7	合計	8																																				
	託児人数	男性	0	女性	0	合計	0	(1人無記入)																																			
	経緯・目的 意図・必要性	<p>地域の障害者（障害）に関する課題やニーズ 実施することで実現しようとしたこと</p> <p>障害のある方が講座に参加し、集団行動を通し、集団でしか学ぶことができない協調性や他人に対する配慮及び思いやりなど人との関わりを実感できる機会とする。また、料理教室（講座）では料理する工程を学び、完成したものを試食する。この過程で作る喜び、最後まで目的を成し遂げる達成感を実感し、障害のある方の社会参加の促進と、就労者等の生活支援などを図ることを目的とする。</p>																																									
手段・工夫	<p>地域の障害者に対する周知（広報手段） 地域における障害者（障害）の参加や理解促進のために行った内容</p> <p>講師は、社会福祉法人もくせい福祉会 ほっとラウンジ職員及び障害福祉サービス事業所（就労継続支援※B型）で働いている障害のある方をスタッフ（4名）として迎えて開催する。周知は、区報・HP・障害のある方が利用される区役所の担当課などにチラシを配架する。</p>																																										
成果	<p>事業を実施してみて得られた成果（効果） 参加者アンケートの結果を踏まえて</p> <p>講座の参加者は、精神障害の方が多く、グループ内で役割分担をし、和やかな雰囲気ですぐに料理を完成させた。準備から始まり料理を作り、食事・片付けまで協力して行い、閉講時までは、参加者同士も打ち解けて満足した様子だった。講師のわかりやすく丁寧な指導と、参加者への適切なフォローがあり、充実した料理教室になった。</p>																																										
課題	<p>事業を実施してみて明らかになった問題点及び改善点 今後、挑戦してみたいこと</p> <p>障害は、人によって種類や程度等が違うので、講座を行う上で、参加者全員ができること・協力できること等を見極め、うまく役割分担をする等、参加者全員が満足のいく講座にする調整を丁寧に進める必要がある。</p>																																										

障害者の生涯学習に関する事業の事例報告

区名 桜区 館名 栄和公民館 担当 堀 一実

事業名 人権講座 ふれあいコンサート

項 目	内 容																								
基本 情報	<p>主な内容</p> <p>アイリッシュハーブの演奏を楽しむとともに、全国の障害者支援施設や特別支援学校等で講演の経験を持つ講師の話により、障害のある方への理解を深める。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 障害をテーマとした事業 <input type="checkbox"/> 障害のある方を主な対象とした事業または交流を図ることを目的とした事業 <input type="checkbox"/> 障害のある方に配慮した事業</p>																								
	<p>日時・回数</p> <p>令和元年6月27日(木)10時00分～11時30分・全1回</p>																								
	<p>会 場</p> <p>栄和公民館(桜区)</p>																								
	<p>対象・定員</p> <p>どなたでも・200人</p>																								
申 込	<p>申込期間</p> <p style="text-align: right;">抽選の有無 無</p>																								
	<p>申込方法</p> <p>当日受付・先着順</p>																								
	<p>託児の有無</p> <p>無 <input type="checkbox"/> 託児定員 <input type="checkbox"/> 託児対象 <input type="checkbox"/></p>																								
実 施 報 告	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">申込者人数</td> <td style="width: 10%;">男性 0</td> <td style="width: 10%;">女性 0</td> <td style="width: 10%;">合計 0</td> <td rowspan="4" style="width: 55%; vertical-align: top;"> <p>【障害者の内訳(参加者実人数)】</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">男性 0</td> <td style="width: 15%;">女性 0</td> <td style="width: 15%;">合計 0</td> </tr> <tr> <td style="width: 15%;">障害種別</td> <td style="width: 15%;">身体 0</td> <td style="width: 15%;">知的 0</td> <td style="width: 15%;">精神 0</td> </tr> </table> </td> </tr> <tr> <td>参加実人数</td> <td>男性 6</td> <td>女性 50</td> <td>合計 56</td> </tr> <tr> <td>参加延人数</td> <td>男性 6</td> <td>女性 50</td> <td>合計 56</td> </tr> <tr> <td>託児人数</td> <td>男性 0</td> <td>女性 0</td> <td>合計 0</td> </tr> </table>	申込者人数	男性 0	女性 0	合計 0	<p>【障害者の内訳(参加者実人数)】</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">男性 0</td> <td style="width: 15%;">女性 0</td> <td style="width: 15%;">合計 0</td> </tr> <tr> <td style="width: 15%;">障害種別</td> <td style="width: 15%;">身体 0</td> <td style="width: 15%;">知的 0</td> <td style="width: 15%;">精神 0</td> </tr> </table>	男性 0	女性 0	合計 0	障害種別	身体 0	知的 0	精神 0	参加実人数	男性 6	女性 50	合計 56	参加延人数	男性 6	女性 50	合計 56	託児人数	男性 0	女性 0	合計 0
	申込者人数	男性 0	女性 0	合計 0	<p>【障害者の内訳(参加者実人数)】</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">男性 0</td> <td style="width: 15%;">女性 0</td> <td style="width: 15%;">合計 0</td> </tr> <tr> <td style="width: 15%;">障害種別</td> <td style="width: 15%;">身体 0</td> <td style="width: 15%;">知的 0</td> <td style="width: 15%;">精神 0</td> </tr> </table>		男性 0	女性 0	合計 0	障害種別	身体 0	知的 0	精神 0												
	男性 0	女性 0	合計 0																						
	障害種別	身体 0	知的 0	精神 0																					
	参加実人数	男性 6	女性 50	合計 56																					
	参加延人数	男性 6	女性 50	合計 56																					
	託児人数	男性 0	女性 0	合計 0																					
	<p>経緯・目的 意図・必要性</p> <p>地域の障害者(障害)に関する課題やニーズ 実施することで実現しようとしたこと</p> <p>障害者と接することの少ない地域の方々に、障害者およびそのご家族への理解を深めていただく。</p>																								
	<p>手段・工夫</p> <p>地域の障害者に対する周知(広報手段) 地域における障害者(障害)の参加や理解促進のために行った内容</p> <p>講話だけの講座ではなく、アイリッシュハーブの演奏と講話を組み合わせることにより、障害者理解という少し難しい内容について、幅広い方に参加していただき、学んでいただけるように工夫した。 公民館報に掲載し、地域約5,000件への配布と、HP、館内チラシによる周知を行った。</p>																								
	<p>成 果</p> <p>事業を実施してみて得られた成果(効果) 参加者アンケートの結果を踏まえて</p> <p>講師の話聞きながら、涙する参加者が多く見受けられた。 「アイリッシュハーブの演奏が聴けるからと参加したが、講師の話聞き、これから優しい気持ちで誰に対しても接したい。」といった感想をいただいた。</p>																								
<p>課 題</p> <p>事業を実施してみて明らかになった問題点及び改善点 今後、挑戦してみたいこと</p> <p>理解だけでなく、支援につながるような「点字」や「手話」を体験していただく講座を実施したい。</p>																									

障害者の生涯学習に関する事業の事例報告

区名 浦和区 館名 南箇公民館 担当吉野 みどり

事業名 たなばたまつり

項 目	内 容					
基 本 情 報	主な内容	地域住民と協働により、古くから地元には伝わる七夕まつりの伝承を図るため、七夕飾り用の折紙・短冊・七夕馬づくりを学び、もって地域や伝統文化を振り返る。公民館地域内の中学校特別支援学級生徒にも参加してもらい、紙芝居を上演した。 <input type="checkbox"/> 障害をテーマとした事業 <input checked="" type="checkbox"/> 障害のある方を主な対象とした事業または交流を図ることを目的とした事業 <input type="checkbox"/> 障害のある方に配慮した事業				
	日時・回数	令和元年6月29日（土）10時00分～12時00分・全1回				
	会 場	南箇公民館（浦和区）				
	対象・定員	地域の子どもとその保護者・100人				
申 込 込	申込期間					
	申込方法	抽選の有無 無				
	託児の有無	無	託児定員	託児対象		
実 施 報 告	申込者人数	男性: 27	女性: 30	合計: 57	【障害者の内訳(参加者実人数)】	
	参加実人数	男性: 7	女性: 1	合計: 8		
	参加延人数	男性: 27	女性: 30	合計: 57	障害種別	身体: 7
	託児人数	男性: 0	女性: 0	合計: 0	知的: 1	精神: 7
	経緯・目的 意図・必要性	地域の障害者（障害）に関する課題やニーズ 実施することで実現しようとしたこと 木崎中学校特別支援学級の生徒たちや地域住民との協働により、古くから地元には伝わるたなばたまつりの伝承を図る。				
	手段・工夫	地域の障害者に対する周知（広報手段） 地域における障害者（障害）の参加や理解促進のために行った内容 広報の手段は、公民館だよりに掲載し、館内でチラシを配布した。特別支援学級の生徒達には、たなばたの紙芝居や地域住民の指導で南箇公民館地域に伝わる伝統の馬づくりを体験した。				
成 果	事業を実施してみて得られた成果（効果） 参加者アンケートの結果を踏まえて 参加した子どもたちが、紙芝居を鑑賞したり、一緒に馬づくりをすることにより障害者への理解を深めることができた。参加者が子どものためアンケートは取っていない。					
課 題	事業を実施してみて明らかになった問題点及び改善点 今後、挑戦したいこと 時間に余裕がなかったため、講座の終盤はあわただしくなってしまった。障害を持った子どもたちは、時間的に余裕があったほうが行動しやすいので、次回は、スケジュールに余裕をもたせたいと思う。また、地域行事を支えている方々の高齢化によるボランティアの減少が課題である。					

障害者の生涯学習に関する事業の事例報告

区名 南区 館名 南浦和公民館 担当 貫井 直美

事業名 もっと話したい方のための手話講座

項 目	内 容																									
基本 情報	<p>主な内容</p> <p>さいたま市聴覚障害者協会から派遣された講師と手話通訳者を迎え、日常的な簡単な会話を中心に手話の学習をするだけでなく、日本の障害者の現状や立場などについても理解を深める。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 障害をテーマとした事業 <input checked="" type="checkbox"/> 障害のある方を主な対象とした事業または交流を図ることを目的とした事業 <input checked="" type="checkbox"/> 障害のある方に配慮した事業</p>																									
	<p>日時・回数</p> <p>令和元年7月4日～令和元年7月25日 10時00分～12時00分</p>																									
	<p>会 場</p> <p>南浦和公民館(南区)</p>																									
	<p>対象・定員</p> <p>成人の方・20人</p>																									
申 込	<p>申込期間</p> <p>令和元年6月10日(月)～令和元年6月28日(金)</p>																									
	<p>申込方法</p> <p>窓口・電話・FAX 抽選の有無 無</p>																									
	<p>託児の有無</p> <p>無 託児定員 託児対象</p>																									
実施 報告	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">申込者人数</td> <td style="width: 10%;">男性 1</td> <td style="width: 10%;">女性 10</td> <td style="width: 10%;">合計 11</td> <td rowspan="4" style="width: 55%; vertical-align: top;"> <p>【障害者の内訳(参加者実人数)】</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%;">男性</td> <td style="width: 20%;">女性</td> <td style="width: 20%;">合計</td> <td style="width: 40%;"></td> </tr> <tr> <td>参加実人数</td> <td>男性 1</td> <td>女性 10</td> <td>合計 11</td> </tr> <tr> <td>参加延人数</td> <td>男性 4</td> <td>女性 37</td> <td>合計 41</td> </tr> <tr> <td>託児人数</td> <td>男性 0</td> <td>女性 0</td> <td>合計 0</td> </tr> </table> <p>【障害種別】</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%;">障害種別</td> <td style="width: 20%;">身体</td> <td style="width: 20%;">知的</td> <td style="width: 40%;">精神</td> </tr> </table> </td> </tr> </table>	申込者人数	男性 1	女性 10	合計 11	<p>【障害者の内訳(参加者実人数)】</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%;">男性</td> <td style="width: 20%;">女性</td> <td style="width: 20%;">合計</td> <td style="width: 40%;"></td> </tr> <tr> <td>参加実人数</td> <td>男性 1</td> <td>女性 10</td> <td>合計 11</td> </tr> <tr> <td>参加延人数</td> <td>男性 4</td> <td>女性 37</td> <td>合計 41</td> </tr> <tr> <td>託児人数</td> <td>男性 0</td> <td>女性 0</td> <td>合計 0</td> </tr> </table> <p>【障害種別】</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%;">障害種別</td> <td style="width: 20%;">身体</td> <td style="width: 20%;">知的</td> <td style="width: 40%;">精神</td> </tr> </table>	男性	女性	合計		参加実人数	男性 1	女性 10	合計 11	参加延人数	男性 4	女性 37	合計 41	託児人数	男性 0	女性 0	合計 0	障害種別	身体	知的	精神
	申込者人数	男性 1	女性 10	合計 11	<p>【障害者の内訳(参加者実人数)】</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%;">男性</td> <td style="width: 20%;">女性</td> <td style="width: 20%;">合計</td> <td style="width: 40%;"></td> </tr> <tr> <td>参加実人数</td> <td>男性 1</td> <td>女性 10</td> <td>合計 11</td> </tr> <tr> <td>参加延人数</td> <td>男性 4</td> <td>女性 37</td> <td>合計 41</td> </tr> <tr> <td>託児人数</td> <td>男性 0</td> <td>女性 0</td> <td>合計 0</td> </tr> </table> <p>【障害種別】</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%;">障害種別</td> <td style="width: 20%;">身体</td> <td style="width: 20%;">知的</td> <td style="width: 40%;">精神</td> </tr> </table>		男性	女性	合計		参加実人数	男性 1	女性 10	合計 11	参加延人数	男性 4	女性 37	合計 41	託児人数	男性 0	女性 0	合計 0	障害種別	身体	知的	精神
	男性	女性	合計																							
	参加実人数	男性 1	女性 10	合計 11																						
	参加延人数	男性 4	女性 37	合計 41																						
	託児人数	男性 0	女性 0	合計 0																						
障害種別	身体	知的	精神																							
<p>経緯・目的 意図・必要性</p> <p>地域の障害者(障害)に関する課題やニーズ 実施することで表現しようとしたこと</p> <p>手話を理解し使える市民が増えることで、障害者の方々に優しく、住みよい街づくりの一助となるよう本講座を実施する。</p>																										
<p>手段・工夫</p> <p>地域の障害者に対する周知(広報手段) 地域における障害者(障害)の参加や理解促進のために行った内容</p> <p>申込み受付の際は、窓口・電話・FAXで受けるようにした。気軽に障害者の方とコミュニケーションがとれるよう、講座内容については、自己紹介から始まり普段どこでもするような日常会話を中心に実施した。</p>																										
<p>成 果</p> <p>事業を実施してみて得られた成果(効果) 参加者アンケートの結果を踏まえて</p> <p>様々な手話を学ぶだけでなく、身振り手振りジェスチャーなどを交えることで、より円滑に物事を伝えることができるということを学び、手話への学習意欲がわきそのほかの学習場所やサークルへの興味を示す方もいた。</p>																										
<p>課 題</p> <p>事業を実施してみて明らかになった問題点及び改善点 今後、挑戦してみたいこと</p> <p>課題としては、主催者側としては年々講座内容のレベルを上げたいが、参加希望者の習得レベルが揃わないということが挙げられる。令和2年度、3年目となる手話講座の課題としては、日常生活の様々な場面(駅・買い物・銀行など)で役立つ手話の学習を提供したい。</p>																										

障害者の生涯学習に関する事業の事例報告

区名 緑区 館名 大古里公民館 担当 釜口・山本

事業名 人権講座「盲導犬を知ろう！」

項 目	内 容																																						
基本 情報	<p>主な内容</p> <p>盲導犬の一生、盲導犬の仕事、盲導犬に街で出会った際の注意事項、盲導犬ユーザーの一日などについて学び、盲導犬と盲導犬ユーザーへの理解を深めます。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>障害をテーマとした事業 <input checked="" type="checkbox"/>障害のある方を主な対象とした事業または交流を図ることを目的とした事業 <input checked="" type="checkbox"/>障害のある方に配慮した事業</p>																																						
	<p>日時・回数</p> <p>平成31年1月22日(火)14時00分～15時30分・全1回</p>																																						
	<p>会 場</p> <p>大古里公民館・美園公民館共催(緑区)</p>																																						
	<p>対象・定員</p> <p>さいたま市在住・在勤・在学の成人の方・40人</p>																																						
申 込	<p>申込期間</p> <p>平成30年12月17日(月)～平成31年1月18日(金)</p>																																						
	<p>申込方法</p> <p>窓口・電話・FAX 抽選の有無 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/></p>																																						
	<p>託児の有無</p> <p>無 <input type="checkbox"/> 託児定員 <input type="checkbox"/> 託児対象 <input type="checkbox"/></p>																																						
実 施 報 告	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%;">申込者人数</td> <td style="width: 10%;">男性</td> <td style="width: 10%;">1</td> <td style="width: 10%;">女性</td> <td style="width: 10%;">7</td> <td style="width: 10%;">合計</td> <td style="width: 10%;">8</td> <td rowspan="4" style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>【障害者の内訳(参加者実人数)】</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%;">男性</td> <td style="width: 33%;">女性</td> <td style="width: 33%;">合計</td> </tr> <tr> <td style="width: 33%;"></td> <td style="width: 33%;"></td> <td style="width: 33%;"></td> </tr> </table> <p>障害種別</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%;">身体</td> <td style="width: 33%;">知的</td> <td style="width: 33%;">精神</td> </tr> </table> </td> </tr> <tr> <td>参加実人数</td> <td>男性</td> <td>1</td> <td>女性</td> <td>7</td> <td>合計</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>参加延人数</td> <td>男性</td> <td>1</td> <td>女性</td> <td>7</td> <td>合計</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>託児人数</td> <td>男性</td> <td>0</td> <td>女性</td> <td>0</td> <td>合計</td> <td>0</td> </tr> </table>	申込者人数	男性	1	女性	7	合計	8	<p>【障害者の内訳(参加者実人数)】</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%;">男性</td> <td style="width: 33%;">女性</td> <td style="width: 33%;">合計</td> </tr> <tr> <td style="width: 33%;"></td> <td style="width: 33%;"></td> <td style="width: 33%;"></td> </tr> </table> <p>障害種別</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%;">身体</td> <td style="width: 33%;">知的</td> <td style="width: 33%;">精神</td> </tr> </table>	男性	女性	合計				身体	知的	精神	参加実人数	男性	1	女性	7	合計	8	参加延人数	男性	1	女性	7	合計	8	託児人数	男性	0	女性	0	合計	0
	申込者人数	男性	1	女性	7	合計	8	<p>【障害者の内訳(参加者実人数)】</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%;">男性</td> <td style="width: 33%;">女性</td> <td style="width: 33%;">合計</td> </tr> <tr> <td style="width: 33%;"></td> <td style="width: 33%;"></td> <td style="width: 33%;"></td> </tr> </table> <p>障害種別</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%;">身体</td> <td style="width: 33%;">知的</td> <td style="width: 33%;">精神</td> </tr> </table>		男性	女性	合計				身体	知的	精神																					
	男性	女性	合計																																				
	身体	知的	精神																																				
	参加実人数	男性	1	女性	7	合計	8																																
	参加延人数	男性	1	女性	7	合計	8																																
託児人数	男性	0	女性	0	合計	0																																	
<p>経緯・目的 意図・必要性</p> <p>地域の障害者(障害)に関する課題やニーズ 実施することで表現しようとしたこと</p> <p>公益財団法人 日本盲導犬協会へ講師をお願いし、視覚障害者や盲導犬に対する理解を深めるために開催した。地域で、障害者をあたたかく見守るため、また盲導犬を連れていての方と共存するための知恵などを学習する。</p>																																							
<p>手段・工夫</p> <p>地域の障害者に対する周知(広報手段) 地域における障害者(障害)の参加や理解促進のために行った内容</p> <p>地域在住のユーザーの方と盲導犬(ジャーマンシェパード)、協会スタッフに来館いただき、盲導犬を中心にアットホームな雰囲気の中で講座を進めた。身近な地域で、視覚障害者の方がどんな生活、体験をなさっているのかという具体的なお話を伺い、盛り込みながら、盲導犬を社会の仲間として受け入れる重要性を再認識していただくよう努めた。</p>																																							
<p>成 果</p> <p>事業を実施してみて得られた成果(効果) 参加者アンケートの結果を踏まえて</p> <p>例えば、街で盲導犬に出会ったら「声をかけたり、じっと前から見つめたり、口笛を鳴らしたりしてはいけない」「食べ物を与えたりしない」「盲導犬を撫でたり、ハーネスを触ったりしない」「自分のペットと近づけたりしない」「困っていたら、何かお手伝いしましょうか、と声をかける」などの意識ができたという声寄せられた。参加者の方にも、ユーザーの方が困っているかもしれないと気づいたら、積極的に声掛けしようと思ってもらえたと思う。</p>																																							
<p>課 題</p> <p>事業を実施してみて明らかになった問題点及び改善点 今後、挑戦してみたいこと</p> <p>様々な体験を背負いながらも、盲導犬と共に前向きに生きていらっしゃるユーザーの方の明るく引き込まれる話ぶりに、できればもっと多くの方に聴講していただきたいと感じ、参加者からも、曜日、時間帯によっては他にも聴講を希望する方がいらっやったと聞き、日程の設定に一考が必要だったと考えた。</p>																																							

障害者の生涯学習に関する事業の事例報告

区名 岩槻区 館名 岩槻本丸公民館 担当 鈴木 浩

事業名 避難所講座

項 目	内 容													
基本 情 報	主な内容	<p>災害時に開設される避難所のうち、「要配慮者優先避難所」と指定されている岩槻本丸公民館の防災用の備品や館内を見学し、災害時にそれぞれの状況に応じてどのような備えをしたらよいか参加者で考える講座です。また、非常食の試食をします。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>障害をテーマとした事業 <input checked="" type="checkbox"/>障害のある方を主な対象とした事業または交流を図ることを目的とした事業 <input type="checkbox"/>障害のある方に配慮した事業</p>												
	日時・回数	令和元年12月14日(土)10時00分～12時30分・全1回												
	会 場	岩槻本丸公民館 (岩槻区)												
	対象・定員	障害をお持ちの方とその家族・50人												
申 込 込	申込期間	令和元年12月2日(月)～令和元年12月13日(金)												
	申込方法	窓口・電話・FAX・インターネット 抽選の有無 無												
	託児の有無	無 託児定員 託児対象												
実 施 報 告	申込者人数	<table border="1" style="display: inline-table; border-collapse: collapse;"> <tr><td>男性</td><td>5</td><td>女性</td><td>17</td><td>合計</td><td>22</td></tr> </table> 【障害者の内訳(参加者実人数)】	男性	5	女性	17	合計	22						
	男性	5	女性	17	合計	22								
	参加実人数	<table border="1" style="display: inline-table; border-collapse: collapse;"> <tr><td>男性</td><td>5</td><td>女性</td><td>12</td><td>合計</td><td>17</td></tr> </table> <table border="1" style="display: inline-table; border-collapse: collapse;"> <tr><td>男性</td><td>1</td><td>女性</td><td>2</td><td>合計</td><td>3</td></tr> </table> 	男性	5	女性	12	合計	17	男性	1	女性	2	合計	3
	男性	5	女性	12	合計	17								
	男性	1	女性	2	合計	3								
	参加延人数	<table border="1" style="display: inline-table; border-collapse: collapse;"> <tr><td>男性</td><td>5</td><td>女性</td><td>12</td><td>合計</td><td>17</td></tr> </table> <table border="1" style="display: inline-table; border-collapse: collapse;"> <tr><td>障害種別</td><td>身体</td><td>2</td><td>知的</td><td>1</td><td>精神</td></tr> </table> 	男性	5	女性	12	合計	17	障害種別	身体	2	知的	1	精神
	男性	5	女性	12	合計	17								
	障害種別	身体	2	知的	1	精神								
	託児人数	<table border="1" style="display: inline-table; border-collapse: collapse;"> <tr><td>男性</td><td>0</td><td>女性</td><td>0</td><td>合計</td><td>0</td></tr> </table>	男性	0	女性	0	合計	0						
	男性	0	女性	0	合計	0								
経緯・目的 意図・必要 性	<p>地域の障害者(障害)に関する課題やニーズ実施することで実現しようとしたこと</p> <p>要配慮者優先避難所として指定されている公民館だが、実際にその対象となる方が避難所として認知されていないのではないかと懸念から、地域の社会福祉団体に協力を求め開催した。公民館が避難所であることの周知や、実際に避難するにあたりそれぞれの障害によってさまざまなニーズや問題があるのではないかと考え、実際に来館してもらえ避難所講座を開催した。</p>													
手段・工夫	<p>地域の障害者に対する周知(広報手段) 地域における障害者(障害)の参加や理解促進のために行った内容</p> <p>公民館だより等の広報に加え、さいたま市手をつなぐ育成会岩槻支部様に協力をいただき、その活動の中でも参加者を募っていただいた。今回は、障害の種別は指定しなかった。参加者の中には高齢者の方や小さなお子様を連れて保護者の方など、幅広い年齢の方に参加いただいた。情報交換や輪を広めるために、ハンドスタンプというイベントも開催したことに加え、非常食の試食など、イベント色を強めて気軽に参加いただけるよう配慮した。</p>													
成 果	<p>事業を実施してみて得られた成果(効果) 参加者アンケートの結果を踏まえて</p> <p>地域の自治会長に参加いただき、要配慮者優先避難所についてご理解いただいたことが非常に大きな成果だと考えている。アンケートでは継続を希望する声や健常者も交えて生涯を理解するため広めてほしいという意見もいただいた。必要な情報をより広めるために、今後も継続することが必要だと痛感し、今年度も事業を継続できるよう調整中である。</p>													
課 題	<p>事業を実施してみて明らかになった問題点及び改善点 今後、挑戦してみたいこと</p> <p>「障害者」とひとくくりに出不来ない現状があり、それぞれに複雑な問題を抱えている。避難所として施設管理等するうえで、普遍的な施設整備を行っているが、障害者に配慮するということは、10人いれば10人が妥協のできない事情があり、きめ細やかに対応する難しさがある。それでも、よりよい避難所運営をするため、また、実際の避難において各自で十分な備えをするため、広報及び講座の開催を続け、情報を発信し続けなければならない。</p>													

さいたま市公民館運営審議会 委員名簿

(任期: 令和元年11月1日～令和3年10月31日)

NO	氏名	区分	所属・職業	備考
1	石田 玲子	社会教育の関係者	さいたま市立大砂土東公民館連絡会委員	
2	今川 夏如	家庭教育の向上に資する活動を行う者	さいたま市PTA協議会副会長	
3	内河 水穂子	学校教育の関係者	さいたま市教育委員会事務局学校教育部特別支援教育室長	
4	加藤 美幸	社会教育の関係者	元国立教育政策研究所社会教育実践研究センター専門調査員	副委員長
5	金今 義則	学校教育の関係者	さいたま市立柏崎小学校校長	
6	久保木 央	家庭教育の向上に資する活動を行う者	さいたま市民生委員児童委員協議会理事	
7	島田 正次	社会教育の関係者	さいたま市自治会連合会副会長	
8	寺田 道子	社会教育の関係者	さいたま市生涯学習相談ボランティアえらべル会員	
9	堀杉 幸子	社会教育の関係者	さいたま市立岸町公民館運営協議委員会委員	
10	松岡 進	公募による市民	公募委員	
11	山崎 秀雄	社会教育の関係者	社会福祉法人さいたま市社会福祉協議会副会長兼常務理事	
12	山中 冴子	学識経験を有する者	埼玉大学教育学部准教授	委員長

敬称略、所属・職業は委嘱(任命)日現在

本答申書は200部作成し、1部あたりの印刷経費は114円(概算)です。